

スキル不足でてんやわんや 勉強した甲斐あって見事な植林

社会貢献環境対策委員長 薛 博夫



「仙台の森」植林を指揮した薛委員長

▼みどりのきずな再生P

5年前、埼玉県嵐山町の「共生の森・植林活動」に始まった社会貢献環境対策委員会(当時は部会) : その経験を生かして!今年からは、国の事業でもある「みどりのきずな再生プロジェクト」に参加しています。

ご存知の方もいると思いますが、東日本大震災で、140kmを超え海岸防災林が壊滅状態になりました。東北から関東まで、これを再生しようという長大な計画で

す。初年度、我々は、この内の、0・16ヘクタール(40m×40m)を担うことになりました。

▼瓦礫で作った堤防

まずは、視察。仙台駅から車で30分、荒野に突然現れるプレハブコンビニ(映画のセットみたい!)が目印。その先、荒浜小学校の脇に、瓦礫を利用して盛り土された堤防が、今回の防災林再生場所です。200〜300人の方の遺体が打ち上げられた場所でもあるので:合掌しました。元は住宅街だったようですが、ガランドウの校舎を除いて、今は何も見当たりません。この堤防、瓦礫に、砂をかぶせただけの構造:ペンペン草も生えていません。こんなやせた土地に植林なんて可能かなくと言うのが第一印象。

▼経験不足

さて、現地の森林管理局の方たちと、どの様に植林して再生させるかの、打ち合わせに入りました。:が、そもそも、東北の防災林はとも古く、最近、東北で防災林の植林をした実績がなく、専門家の経験がない状態なんですつて。:だから、多種混合の植林を勧めたり、いや、逆境に強いクロマツなら根付くなど:意見はバラバラ。昨年冬に、プロが試験的に植えたクロマツ(野田首相がセレモニーで植えた分かな?)も、半分枯れてたりして:ボラソティアとしては大変不安です。

▼千葉で予習

我々では、鼻っからスキル不足なので、ここは共生の森でいつもお世話になっている埼玉森林サポータークラブに相談:が、埼玉は海なし県!なので、千葉県と一緒に勉強に行くこととなりました。千葉では、一歩先に再生事業が進んでい



て、プロが行った植林とボラソティアが行った植林を見学。植え方や注意点(根っこは踏んづけろ!)も教えてもらいました。サポータークラブ、緑化推進委員会の横の連携はたいしたもの、たくさんの情報が得られました。

▼美しさに挑戦

5月16〜17日のべ1000人を投入して、770本のクロマツと70本のヤマザクラを植林しました:業界としては777本がベストだったんですけど(笑)。

サポータークラブの指導のもと、初の防災林植林に挑戦。プロの植林とボラソティアの植林の違いは、その並びの美しさ:だそうです。変形地にマトリクス状に植えるのですが、縦横斜めどこから見ても、一直線に見えるのがプロの仕事。今回はココにこだわったので:穴掘りの、大規模やり直しも発生(笑)。でも、こだわった甲斐あって、プロが植えたような見事な一角になりました。育つのが楽しみです!